

タテ科 ソバカズラ属

イタドリ (虎杖)

Fallopia japonica (Houtt.) Ronse Decr. var. *japonica*

自生環境

林縁、土手、道ばた など

原産地

日本在来

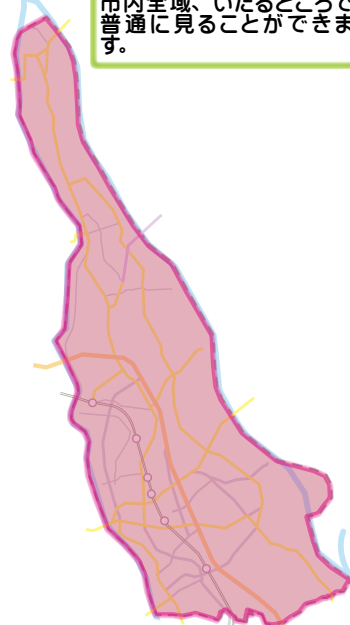
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域、いたるところで普通に見ることができます。



特徴

- ☆ 山野の日当たりのよい場所に生える雌雄別株の多年草です。地下茎を長くはりめぐらせながら広がって群生します。全体にシュウ酸を含むため、かじると酸味があります。特に春の新芽はみずみずしく、折ってかじると口の中がさわやかになって野良作業の疲れが吹き飛びます。
- ☆ 草丈は1.5m ほどになりますが、草丈は草刈りなどによって大きく変動します。茎は弓なりに曲がるようにのびます。花期は夏～秋で、葉のわきに小さな白い花をびっしりと咲かせます。ときに赤っぽい花を咲かせる株があり、ベニイタドリまたはメイゲツソウと呼ばれます。
- ☆ 葉のつけ根に蜜腺があります。ここから蜜を出してアリを呼び、蜜をあげる代わりに体を守ってもらっています。初夏にドクガの幼虫がつくことがあるため観察時は注意が必要です。

コンクリートをこわす草

日本の植物を積極的に収集したシーボルトは、イタドリもヨーロッパに持ち帰りました。当初は園芸用に栽培されましたが、ほどなくして雑草化。コンクリートをも突き破る勢いで増えて、手に負えなくなっていました。しかしこれは人の手によって、生態系の異なる場所に持ち込まれたから起きたことです。日本の生態系内におさまっている範囲では、このような悪さをすることはありません。

葉のわきに小さな花を
びっしりと咲かせる



白いひらひらした部分は
花後に大きくなった花びら



大きくなった花びらに
包まれながらタネが育つ

花柄は
細く、
長さは
約3mm



花びらは
ふつう
白色で5枚



葉

葉の根もとに
蜜腺があり、
蜜を求めて
アリがくる



春の新芽はたけのこを
細長くしたような姿



茎はみずみずしく、
かじると酸っぱい。

わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBJegnWATWd-UZsNzCA>

